

教育目標: ◎思いやりのある子 ◎すすんで学ぶ子 ◎力を合わせる子 ◎元気な子

目指す学校像: ◎確かに学ぶ学校 ◎安全・安心な学校 ◎未来を創る学校 ◎とにもある学校

目指す児童・生徒像: ◎主体的に学び、自らの力を高め伸す子 ◎自他を大切に、心豊かに他者と協働する子 ◎心身ともに健康に生活する子

目指す教師像: ◎学校の役割を十分に理解し、家庭・地域と連携して教育活動に貢献する教職員 ◎心身ともに健康な教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標		成果指標		分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かに学ぶ学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、多様な人々と協働しながら課題解決を図る学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 個に応じた指導、互いに学び合い、高め合う指導、タブレット型PCの活用を推進・充実させる。 体験的・協働的な学習、探究的な学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学び、「分かりやすい授業」を推進し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 「習得・探究・活用」「問題解決」の学習過程を取り入れた授業、生活科や総合的な学習の時間を中心とした人的・物的資源を生かした協働学習を行う。国分寺市の推進を図る。 タブレット型パソコンの活用、ICT機器等を効果的に活用した分かりやすい教材の提示により、「分かる・できる・つながる授業」を展開する。個に応じた丁寧な指導を行う。 	4	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎的・基本的な知識や技能の習得に向け、ICTを活用した授業内での基礎基本の定着の確認。家庭学習としてドリルや「まなびポケット」を活用した反復学習、習得した学習内容を下学年に教える交流学習などを実践し、基礎・基本的な学力の定着が得られた。(児童アンケート肯定的な意見96%) ◎家庭学習の取組では、家庭の協力を得ることで、理解度や課題の把握や共有、学習意欲の向上につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「自ら学ぶ喜び」を実感するために、児童が自ら課題設定し、自主的に取り組む学習活動や家庭学習の工夫をする。 ◎児童のノートや作品、活動の様子を授業の評価として捉え、それを生かして教材研究や指導方法の工夫を行う。 ◎基礎基本の習熟度の低い児童一人一人の課題に沿った個別指導を行える支援体制時間や人員の確保を整える。
安全・安心な生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の醸成と他者を大切にすることを言葉や態度(挨拶・礼儀)で表すことができるようにする。 いじめや差別、体罰を絶対許さないなど、全教育活動を通じて人権を尊重した教育活動を推進する。 安全教育の推進に取り組む。 教材・教具、校内環境の美化・整備を適切に行い、教育環境を安全に整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や集団生活をする上でのルールの徹底を図る。 自他の心身を大切にすることの判断力・行動力を身に付けさせる。 いじめ防止・不登校対策の充実と徹底を図る。 保護者や地域、関係諸機関と連携した安全教育的取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「十小のきまり」10の約束の指導の徹底の徹底を家庭と連携して行う。 挨拶や相手を大切にすることの態度・言葉遣いを大切に、暴力や暴言を許さない、体罰防止に努める。 組織的にいじめ防止に取り組む。毎月、笑顔チェックカードにより児童の様子を把握し、SOSを見逃さないよう細心の注意を払う。 様々な場面において、「想像する」「行動する」の習慣化を図り、思いやる心や危険を予測し回避する力を養う。また、家庭・地域と連携した安全教育的取組を行う。 	3	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者の95%、同じく児童も95%で肯定的意見だったので、あいさつや決まりを守ることへの自覚意識が高いこと、学校生活外でも意識できていることが分かる。 ◎全校朝会の呼びかけや生活指導夕会の情報共有、教員が模範となつて行う・守るの姿勢を見せるなどで、共通の意識で指導したことが有効だったと言える。 ◎「いじめ防止」に向けて、定期的に児童の実態や思いを把握する取組の実施だけでなく、児童主体の活動を実現させることで、教育目標の重点となる「思いやりのある子」の育成につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校で学ぶことのできる「集団生活での学び」として、挨拶、礼儀、協調性、個性の認め合いなど、児童が本来もっている思いや力を引き出す指導を引き続き行う。 ◎教職員間の「報告・連絡・相談・協働」を徹底し、同じ思いをもって指導することで、児童や保護者が困り感や不安を感じないよう努める。
未来を創る・たくましい体	<ul style="list-style-type: none"> 困難なことにも立ち向かい、様々な人と協働し、課題を解決していくことができるたくましい心と体を育成する。 自分のよさや可能性を伸ばし、生き方について考えを深めたり、自分の夢や希望を大切にしたりすることができるようキャリア教育を推進する。 家庭との連携を図り、生涯にわたって運動に親しみ、健康な体を維持しようとする態度を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育や多様な人権教育の学習を充実させる。 キャリア教育の推進し、自分のよさ・生き方について考える機会を設けたり、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせる。 音楽・造形活動を通し、豊かな情操を養う。 「体力の向上」「食」の大切さを理解し、健康な生活を送ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーや特別支援教室の巡回指導教員等と連携し、発達障害や多様性への理解を深めたり、道徳教育・人権教育の指導を充実させる。 ゲストティーチャーによる授業や自分のよさや協働するよさを感じる授業を充実させ、キャリア教育・アンブレララーシップ教育を推進する。 音楽や発表など表現する機会を積極的に設けるとともに、学級活動、委員会活動を充実させ、児童の自主的な活動を推進する。 児童による委員会活動や休み時間の有効活用により、「楽しみながら運動に親しむ機会」の日常化に取り組む。 元気チェックカードの活用や栄養士と連携した食育を充実させ、健康な心身を培っていくとする意識を高める。 	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎ゲストティーチャーの活用を推進してきたことにより、地域の人から学ぶ、実際に携わる人から学ぶことができ、児童にとって様々な人と関わる機会が増えた。 ◎十小ボランティアとして、保護者や地域の方に学習活動の支援をしていただく機会を多くもらったことにより、教育活動への協力体制と理解が高まったと言える。保護者の肯定的な意見は92%と高く、中間評価より上がった。 ◎教員自身の評価にも、「人とつながる」「環境に関わる」というテーマを意識し、授業改善に取り組んだ成果が表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童の探求的な学習活動において、児童自らが必要とする人的・物的環境を整え、生き方学びにつなげる。 ◎生活科や総合的な学習の時間において、キャリア教育の視点で「自分の生き方」に関する学習活動を取り入れ、「キャリアパスポート」を有効的に活用しながら、家庭と連携して、自分のよさや生き方を考えたり振り返りすることができるようにする。
家庭・地域とにもある学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域に学校運営について分かりやすく情報を発信する。 教育活動の充実・改善のために、内部評価・外部評価を生かす。 保護者や地域の願いを共有し、「開かれた学校づくり」に取り組む。 家庭・地域と連携して教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学校生活や取組の様子がよく分かるよう学校だよりや学校ブログを充実させる。 学校協議会委員・保護者・教職員・児童を対象とした学校評価を実施し、PDCAサイクルによる改善を図る。 保護者・地域と協働し、「チーム十小」として、教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ、学校ブログによる教育活動の様子の適宜発信等、情報を分かりやすく伝える。 学校運営協議会委員・保護者・教職員による学校公開や行事等の実施後アンケート結果を生かし、教育活動の改善・充実を図る。 教職員は、児童が安心して通学できるよう日常の連絡などを丁寧に行い、保護者とともに児童の成長を支える。 保護者や地域人材が積極的な教育活動に参画できるよう「学習ボランティア」「特別校内委員会」などのシステムを確立させる。 	3	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者アンケートでは、90%が肯定的評価だった。 ◎教員の意識としては、「学校ブログ」や「まなびポケット」を活用して学校の様子を伝えているという意識は高い。 ◎アンケートや学校評価から新たな課題や具体的な解決策を見出そうという取組は、組織的、計画的に行うことができている面があるが、評価を前向きに捉えることで日々の教育活動に生かすことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「学校ブログ」や「まなびポケット」での配信を今後も組織的、継続的にを行い、教育活動の様子と児童の様子が具体的、迅速に伝わるようにする。 ◎どんな内容をどのツールを使って発信するのにかについては、より具体的に検討する必要がある、効果的な活用を全教職員で進めていく。
				4	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者による「十小ボランティア」の活用は、体系的な課題も含め、継続して活用することが難しい。教育方針や教育活動の理解をより深めていただくという視点でも、さらに進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎今後も、「社会に開かれた教育課程」の実現のために、より多くの方に教育活動に携わっていただけるような人的・物的環境を整える。 ◎教職員は、児童や保護者の不安や悩み、願いに寄り添い、安心して学校に通えるよう丁寧な指導や温かい対応を行う。 ◎多くの人に教育活動に参画していただくことにより、児童が人と関わりの中で学ぶ機会を増やしていく。